

河川調査の道具贈る

大垣西濃信用金庫 大垣養老高へ
艶金化学繊維 大垣養老高へ

私募債活用

大垣西濃信用金庫は、大垣市十六町の染色整理業「艶金化学繊維」が発行した地域貢献型私募債「絆」を活用し、養老町祖父江の大垣養老高校に河川の環境調査に使う道具一式を寄贈



墨勇志社長(左端)から目録を受け取った高木徳彦校長(中央)ら＝養老町祖父江、大垣養老高校

した。企業の私募債発行により同金庫が受け取る手数料の一部で、企業側が指定した学校や団体に対して物品を寄贈する取り組み。同社は毎年のように同高の卒業

生が就職している縁から寄付先として選定。今回はタモや網、水槽、長靴など計10点を贈ることにした。

贈呈式が同高であり、墨勇志社長は「生産物ができる課程を知る経験が将来を豊かにすると考える。大垣養老高校ではこういった経験を生徒に提供しており、将来を担う人材づくりに少しでも貢献したい」とあいさつ。同金庫静里支店の長澤一支店長とともに高木徳彦校長に目録を手渡した。生徒を代表して環境園芸科3年の森嶋諒(りょう)さん(18)と大橋恵さん(17)が出席し、森嶋さんは「今日の感謝を忘れないようにして授業に取り組んでいきたい」と話した。(古家政徳)